

～社内図書館（モリゾー）を開設しました～



館長（総務部松原）の想い

今年の六月より社員の皆さんからリクエストいただいた本を、会社で購入し、貸し出す社内図書館の制度を導入しました。ビジネス本や技術書に限定せずに絵本、マンガ、学術書、小説など幅広いラインナップを取り揃えています。読み終えた後は、簡単な感想や好きな言葉、共感したメッセージをカードに書いてもらい、社内掲示板で共有することで、自ら学び、教え合う社風や、本を通じたつながりをつくらうとしています。皆様からも、おすすめの本が御座いましたら教えてください！

導入経緯

学び、成長を楽しみましょう!!
「最も変化に対応できるものが生き残る」
～チャールズ・ダーウィン～



新入社員紹介

工事部 藤井 つかさ



9月1日付けで入社しました藤井です。ハツラツと頑張ります！

社内イベント情報

10月21～22日 森長工務店森栄会合同旅行
10月27日 安全研修会
11月1日 創立記念式典
12月2日 忘年会
12月28日 仕事納め・納会
1月5日 初出・新年祝賀会
3月1日 防災訓練



MORINAGA PRESS 第26号 2023年 10月

編集後記

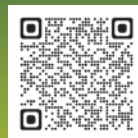
MORINAGAPRESS第26号編集にあたり、ご協力並びにご支援いただきました皆様へ感謝申し上げます。
いよいよ2025年4月の国際博覧会（大阪・関西万博）の開催まで600日を切りました。9月にはついに世界最大級の木造建築物となる大屋根（リング）の建設が始まったとの話題も出てきていました。一方で、報道でも話題になっていますが、海外パビリオン着工は深刻な遅れとなっており、建設業界に携わる者としては何とか開幕までに完成し無事開催される事を願っています。

（編集担当：営業部）

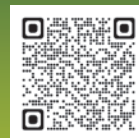
第26号
2023年10月



MORINAGAKOUMUTEN
Instagram
QRコード



HP
QRコード



ブログ
QRコード

MORINAGA PRESS

森長工務店の旬の情報をお届けします。



巻頭メッセージ	P.1
協力会社次世代インタビュー	P.2
お客様訪問・トビックス	P.3
竣工だより・進行中現場	
社内図書館新設 新入社員紹介・イベント情報	P.4

強い組織になるために

「ベンチに座っている選手がふんぞり返るようにして傍観しているチームなのか、それとも前のめりになって声を出しながら、いつ出番が来てもいいように準備しているチームなのか。要するに、他人事にするチームはやっぱり勝ち切らないと思うんですよ。」

（栗山英樹WBC日本代表監督）

WBCで侍ジャパンが優勝した時の興奮は、半年がたった今でも鮮明に残っています。準決勝のメキシコ戦での大谷選手のヘルメットを飛ばしての全力疾走、不振を極めていた村上宗隆選手の逆転サヨナラヒット。決勝のアメリカ戦でのダルビッシュ選手から大谷選手への継投とトラウトとの対決。挙げればきりが無いほど多くの感動を我々に与えてくれました。

栗山監督は日本中を沸かせた侍ジャパンのチーム作りの基本的な考え方を次のように語っています。
「強い組織というのは、全員が自分の都合よりもチームの都合を優先し、全員がチームの目標を自分の目標だと捉えていることだと思っています。」

野球はサッカーやラグビーに比べると、個人の能力が勝敗を左右するスポーツのように思えますが、その野球においても、チームの一体感がWBC優勝の大きな要因であったと栗山監督は言っておられるのです。

これは会社であっても同じことが言えると思います。当社のような現場単位の独立性が強い建設業の場合であっても、社員がどれだけ会社全体のことを考え、そして振舞えるかによって、会社の強さは大きく変わってくるのです。ピンチの現場や部門があった時、たとえ直接には助けてあげられなくても、侍ジャパンがベンチから身を乗り出して声を限りに応援したように、自分のことのように皆がその現場や部門を応援するような会社。そんな会社になれば、どんな時代が来ようとも、隆々と成長発展できる会社になれるに違いないと思うのです。



代表取締役 森 長 敬

協力会社次世代インタビュー Vol.3

森長専務（以下、森長） では自己紹介からお願いします。
野崎社長（以下、野崎） 私は現在四十三歳です。高校卒業後、父の会社で型枠大工として従事しました。二〇〇〇年頃に伯父が経営していた野崎組に合流したのが入社した経緯です。当初は現場配属でしたが、そのうち番頭の仕事を任されるようになりました。
森長 そこで現場の差配を学ばれ、現職に至られたんですね。野崎組はお父様のご兄弟で経営されていたのですか。



株式会社野崎組 野崎 善幸 様
 森長 寛 専務

当社の事業において、なくてはならない存在である施工協力会社の若手経営者や後継者の皆さまに、仕事に対する想いや今後の展望をお伺いする次世代インタビュー。
 第三回目は、当社の協力会である「森栄会」の役員や、ゴルフ同好会である「森球会」の会長を務めて頂いている株式会社野崎組様です！
 創業は一九六八年、設立は一九八八年と事業を永く続けてこられました。当社は主に型枠工事で、約三十年ほどお世話になっています。
 今回は取締役社長の野崎善幸さんにお話を伺いました。

野崎 私の父は五人兄弟で、当時は一番上の伯父が会長、二番目の伯父が社長をしていました。私の父は三男で副社長でした。父の妹の旦那さんと四男の叔父も野崎組で働いていました。
森長 正に家族経営ですね。
野崎 はい。そんな環境で育ったので、自然とこの道を志したのだと思います。小さい頃から父の運転するトラックに同乗して、現場を回ったり、倉庫で遊んだりしていました。型枠大工の仕事が幼少から身近にありましたね。
森長 当社に対してはどんな印象をお持ちでしょうか。
野崎 応援で森長さんの現場に行ったりはしていましたが、本格的にお仕事したのは、野崎組入社後です。最初は病院の現場で、人手が足りず、焦ったのを覚えています。
森長 私が入社前ですね。大変だったとは聞いています。
野崎 最初は大変でしたが、森長さんはアットホームな雰囲気があって、好感が持てます。安全大会やボウリング大会など、盛り上げようと工夫を凝らして頂いている点もいんですね。
森長 そう言って頂けると嬉しいです。さて、昨今建築業界も大きく変化しようとしています。3Dプリンターなど型枠大工さんと競合するような技術も出てきていますよね。こうした点も踏まえて今後の抱負などお伺いさせて下さい。
野崎 私自身は競合するような技術でも、基本的に新しい技術がどんどん出てくることは建築業界にといいことだと思います。しかしそうした新技術にこれまでの技術が取って代わられるわけではなく、要は新技術が適している場面、型枠大工が適している場面というように住み分けされるのではないのでしょうか。
 もちろん型枠大工の仕事自体も変化するとは思いますが。昔はハンマーで釘を打っていましたが、今ではエア釘打機が主流で、ハンマーを使える職人さんも少なくなりました。使う道具や手法は変わりましたが、仕事自体は残っています。時代の変化にうまく適応し、若い方にも活躍頂けるような会社になりたいですね。



森長 今年の安全大会では、人手不足も大きなテーマとして採り上げ、野崎社長にもパネルディスカッションにご登壇頂きました。当社も同様ですが、御社も人の問題は大きいとお伺いしています。
野崎 そうですね。当社では同時並行で三〇、四〇件の現場を手掛けています。効率的な配置を心掛けていますが、やはり人手不足は痛感しています。そこで外国人の方や若手の採用にも取り組んでいます。HPを刷新するなどして、今年は九州の大学から一人入社してくれました。建築の面白さが伝わるような教育も行っていきたいですね。
森長 時代に沿った会社作りを進められ、実際に成果も出されているんですね。今後もぜひ末永く共存共栄させていたきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。
野崎 ありがとうございます。

竣工だより



設計者：大阪市都市整備局
 完成日：2023年7月31日
 構造・規模：RC造・3階
 施工床面積：2,320㎡

西淡路小学校増築その他工事



S社旧事務所棟解体及び外構工事



- 野里小学校増築その他工事
- 神戸PI住宅耐震改修工事
- 三津屋小学校東校舎棟他増築その他工事
- 赤川住宅1号館建設工事
- estageo関目高殿新築工事
- E社本社計画
- Y社第三工場改修工事



進行中現場

トピックス

～4年ぶりに社員懇親会(納涼祭)開催～

5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置付けが2類相当から5類感染症に移行されました。行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから、個人の選択を尊重し自主的な取組みをベースとした対応に変わる事になり、今後は個人や会社の判断が基本となります。

そのような中、当社でも約4年ぶりに社員懇親会を開催しました。社員同士の有機的な繋がりを重要視している当社にとって親睦を図る機会は、仕事を一緒にする上でとても大切にしています。今後も感染対策については、会社や個人の判断が重要になってきますが、そのような中でも少しずつでも社員だけでなく協力業者の皆様とも親睦を図るイベントが再開できる事を楽しみにしています。



お客様訪問



河田機工株式会社
 会長 河田 徹 様

モリナガプレス読者の皆様、初めまして。
 私は、守口市で機械工具商社をしております。お陰様で今年創業七十五周年を迎える事ができました。現在は三代目の社長が会社を継いでくれております。さて、私共と森長工務店様との付き合いの始まりは、昭和二十三年の創業から五十年程経った平成十三年頃、手狭になった本社社屋を新築した時に遡ります。設計の先生に設計依頼をし、施工業者を決める入札の折に数社の中から森長工務店さんに落札して頂いたのがお付き合いの始まりでございます。それ以来現在に至るまであらゆる方面で森長社長初め多くの社員の皆様との長いお付き合いが続いております。建築工事が始まりますと、当時若くてバリバリの土居さんが現場所長を務めて頂いたように記憶しております。建築現場の中心には彼ぐらい立ち廻りのできる人が必要なのだろうと思って見ていたのを

思い出します。
 最近では築二十年も過ぎ社屋のあちこち傷みも出てきておりますが、今はお客様センター長になられた土居さんが電話一本入れば直ぐに駆けつけてくれ、嫌な顔一つせずにメンテナンスをしてもらっているの、弊社に来社頂くお客様の中には最近新築したと勘違いされる方もおられるほど綺麗に保たれています。過去に色々改修をお願いしましたが、協力会社の方達の仕事に対する姿勢が森長工務店さんの社員の方達同様、森長社長の仕事とお客様に対する姿勢と精神がしっかりと伝わっているのを感じております。
 これからもずっと森長工務店さんのファンでありたいと思っております。信頼と安心を届けて頂ける森長工務店さん、これからも末長くお付き合い下さいますよう、お願い申し上げます。

